

2024年12月 高く、広い視野を持って迷うことなく一流のクラブ作りに励みます

私どもは仕事の心得として、恵那峡CCを一流にするという思いで取り組んでいます。恵那峡CCに関わったころ大先輩の堀井将成さん(NPO法人 いわむら一斎塾 代表)から教わった『佐藤一斎言志四録』の中に

『着眼高ければ則ち理を見て岐せず』 言志録八八条

【高く、広い視野を持てば、物事の道理が見え、大事に接しても決して迷うことはない】とあります。

まさに目指すところが高い程、その過程において迷う事は無いという教えです。

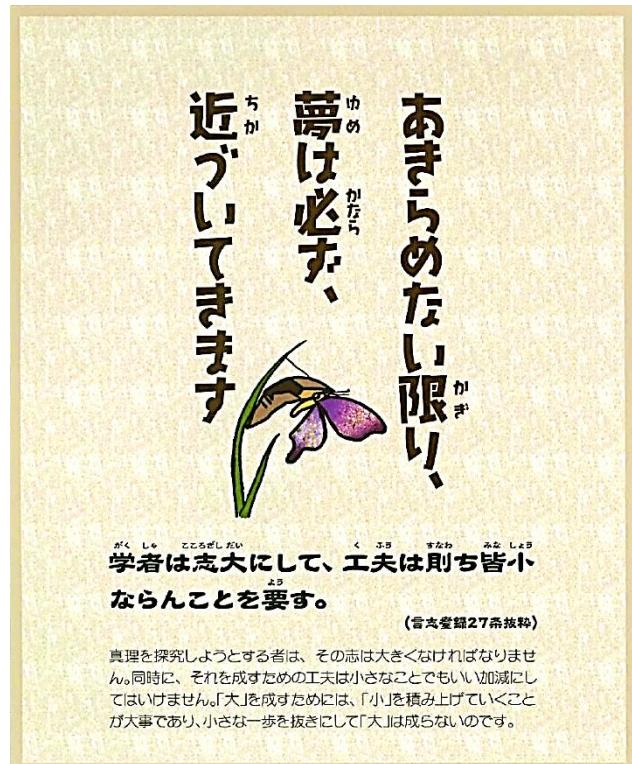
ゴルフ場が一流を目指すには、先ずコースがいい状態でなくてはなりません。

設計も重要ですが、芝の管理の良し悪しで評価は天と地とに変わってしまいます。

コースを管理する仕事は自然が相手という事もあり、コツコツと努力を積み重ねなければ良いコースに仕上がる事はありません。

努力をしていても、ある時は雨が降らなったり、今年の様に気温が高かったりで思う様に行かない事もありますが、それでも日々の努力で答えが出る仕事です。

一流にするという事は日々の努力の積み重ねが重要という事のようです。



佐藤一斎 言志四録の一例

次に一流を目指す条件はサービスの質です。人が人を迎える接客業の場所として社員が育つ事で、サービスの質が高まると思っています。

基本の姿勢として全ての従業員が『お客様を大切にする気持ち』を持って接していくなければなりません。

その為に会社を一つにする事をいつも考えてきました。

同じ方向にベクトルを合わせ、同じ方向に力を向けなければ会社としての強みが出ません。たとえ小さな会社であっても会社は理念を持ち、社員全員を同じ方向に導く事を常時行える事で、大きな力となって会社が発展していくと思います。

全ての社員が同じ考え方を持ってお客様をお迎えする事は非常に難しい事です。育った環境がみんな違う中で、サービスのレベルを合わせなければなりません。それは小さな会社だからやってのけ、そこに大きな力を生む事を実現してみたいと思っています。正直まだ行き届かない事ばかりですが、高く広い視野を持ち続け、一日でも早く一流になれる様に努力して参ります。

